

令和2年3月6日

品川区議会議長

渡辺 裕 一 様

行財政改革特別委員会

委員長 大倉 たかひろ

行財政改革特別委員会の活動現況について

今期の行財政改革特別委員会では、「庁舎のあり方に関する事」、「区有施設・公有地等活用に関する事」、「区組織と関連団体に関する事」および「区内鉄道駅などの公共交通に関する事」の4件を調査事項とし、以下のとおり委員会活動を実施しております。

「庁舎のあり方に関する事」では、まず、先行事例として平成27年に新庁舎を開設した豊島区役所を視察し、建替えまでの経緯、手法、庁舎機能、および総合窓口の状況等について意見交換を行いました。

8月には、昨期の当委員会における「具体的検討事項のまとめ」を受けて、区から建替え候補地として「A 現総合庁舎敷地」、「B 旧荏原第四中学校」、「C 旧第一日野小学校」「D 土地再編による広町敷地」の4つの案が示されました。

候補地としては様々な観点からD案で進められたいといった意見が多数を占めたことを受け、12月には、広町地区の区有地を再編成して新庁舎計画を検討するために、JRと協議を進めている旨の報告を受け、町会・自治会等の関係団体への説明状況、求められる庁舎機能、庁内検討の状況および今後の進め方等について調査・研究を深めて参りました。

「区有施設・公有地等活用に関する事」では、まず、旧国家公務員宿舎（小山台住宅・峰友寮、大井西・大井東宿舎）、東品川清掃作業所、旧品川消防署東品川出張所跡地を視察しました。

次に、国有地の売却・貸付の主な方針について説明を受け、国有地取得に係るスキームについて見識を深めました。

その後、上大崎三丁目旧国家公務員宿舎跡地活用における保育施設等に併設する機能等について、意見交換を行いました。

また、1月には旧国家公務員宿舎小山台住宅等の解体工事について、アスベスト調査の結果、延期する旨の通知を国から受けたことが報告され、今後、国に対し解体工事の早期実施を要望するとともに、各関係機関と協議を行い、早期事業着手に向けて進めていくことを確認しました。

「区組織と関連団体に関すること」では、区内の公益財団法人である「品川区文化振興事業団」「品川区国際友好協会」「品川区スポーツ協会」の3つの法人と区との関わりを調査対象とし、各団体の実施事業、区からの助成金、指定管理や委託等の区との関わりについて調査・研究を行い、労務体制のチェックや独立性の確保等について意見が出されました。

特に、品川区文化振興事業団については、管理する施設において、災害発生時に区と連携できる体制づくりに努めること、品川区国際友好協会については、ホームステイ事業を継続・充実できるよう支援していくこと、品川区スポーツ協会については、スポーツ・レクリエーションの普及、振興を図るにあたり、環境整備を図ること等といった意見が出され、各団体について一定の見識を深めることができました。

「区内鉄道駅などの公共交通に関すること」では、9月にJR大崎駅、2月に東急武蔵小山駅を視察し、混雑緩和への取組み、バリアフリー・安全対策といった視点から調査・研究を深めて参りました。

JR大崎駅では、駅利用者数の増加率がJR東日本管内においてもかなり多いこと、朝のラッシュ時間帯における駅混雑への対策として、乗車人員の整理についての取組み等に関する説明を受けました。

東急武蔵小山駅では、混雑緩和策として、令和4年度上期から東急目黒線の8両化を予定していること。また、バリアフリー対策として、ホームドア等の設置状況、QRコードを利用したバリアフリーアプリの活用等といった説明を受けました。

これらを踏まえて意見交換を行い、引き続き区として鉄道事業者と適宜協議を行い、環境整備に取り組んでいくことを確認いたしました。

これらの調査・研究をふまえ、今後の品川区の行財政改革の推進に生かしていただくべく、本委員会としてのまとめを作成し、提出いたします。

以上が、これまでの当委員会における活動現況の概要でありますので、ご報告いたします。

令和2年3月6日

品川区議会議長

渡辺 裕 一 様

オリンピック・パラリンピック推進特別委員会

委員長 鈴木 ひろ子

オリンピック・パラリンピック推進特別委員会の活動現況について（報告）

今期のオリンピック・パラリンピック推進特別委員会（以下、「委員会」という。）は、「オリンピック・パラリンピックの推進に関すること」、「障害者スポーツの推進に関すること」、「文化プログラムの推進に関すること」、「オリンピック・パラリンピック教育に関すること」および「大会後の施設活用などレガシーに関すること」を調査事項とし、昨年に引き続き設置され、議会運営委員会での議論をふまえた各項目について、調査を進めてまいりました。

具体的な調査・研究の内容といたしましては、まず「オリンピック・パラリンピックの推進に関すること」のうち、「区内開催競技の盛り上げについて」は、大井ホッケー競技場を視察し、施設の見学を行った後、公益社団法人日本ホッケー協会の方々と意見交換を行ってまいりました。この意見交換の内容を踏まえて、観戦者が一体的に応援できるような工夫やまち全体で盛り上げるための手法など、区内開催競技の盛り上げについて議論を行ってまいりました。「暑さ対策について」は、大井ホッケー競技場の最寄り駅である大井競馬場前駅からのラストマイルを大会開催期間と同時期に歩き、本番に近い暑さの体験とラストマイルの状況を確認してまいりました。その体験等を踏まえ、区として取り組める暑さ対策について様々な提案を行ってまいりました。

次に「障害者スポーツの推進に関すること」については、こみゅにていふらざ八潮で実施されていたコロンビア共和国パラ・パワーリフティング事前キャンプを視察し、練習を見学した後、選手やスタッフの方達と意見交換を行ってまいりました。また、区における障害者スポーツの取組みに関して理事者より説明を受け、視察で得た感想も踏まえ、事前キャンプやパラスポーツをきっかけとした障害者スポーツの更なる普及等について議論を行ってまいりました。

次に「文化プログラムの推進に関すること」については、しながわ文化プログラムの現況や今年度から新たに取組みがはじまった品川宿の新たな観光まちづくり事業について理事者より説明を受けたほか、品川寺を視察し、旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会の方などから、品川宿の新たな観光まちづくり事業の概要や進捗状況について説明を受けるとともに意見交換を行ってまいりました。この意見交換等に基づいて、地域から文化プログラムを盛り上げていくための取組みなどの研究を進めてまいりました。

次に、「オリンピック・パラリンピック教育に関すること」については、オリンピック・パラリンピック教育アワード校に選出された品川区立八潮わかば幼稚園のしめ縄作りなどの活動を見学するとともに、園長より同園のオリンピック・パラリンピック教育の具体的な取組みについて説明を受けたほか、質疑応答を行ってまいりました。この見学や質疑応答の内容を踏まえ、東京2020大会を契機としたオリンピック・パラリンピック教育の今後の展開などについて議論を行ってまいりました。

最後に、「大会後の施設活用などレガシーに関すること」についてのうち、「有形レガシーについて」は、大井ホッケー競技場の概要や後利用の方向性について理事者より説明を受け、東京2020大会後の大井ホッケー競技場の有効な活用方法や大会を契機としたバリアフリーの推進などについて、委員間で意見交換を行ってまいりました。「無形レガシーについて」は、ボッチャ体験を実施し、障害者スポーツを通じた障害者理解の促進やボッチャの普及啓発などについて、品川区スポーツ推進委員会の方々と意見交換を行ってまいりました。また、区民の観戦機会やボランティアについて理事者から説明を受け、これらの取組みを東京2020大会後へどのようにつなげていくかについて議論を行いました。

以上の調査・研究をふまえ、品川区のオリンピック・パラリンピックの推進に活かしていただくべく、本委員会としてのまとめを作成し、提出いたします。

以上が、これまでの当委員会における活動現況の概要でありますので、ご報告いたします。